

指導資料



鹿児島県総合教育センター

地理歴史・公民 第8号

- 小, 中, 高, 特別支援学校対象 -

平成21年5月発行

小・中学校の指導内容を活用した高等学校地理学習指導

- 地域の農業の特色を活用した学習指導の工夫 -

農業は、小学校第3学年及び第4学年、第5学年の社会科、中学校社会科地理的分野と高等学校地理A、地理Bで学習する内容である。取り扱う内容が、食料の生産や自然環境とのかかわりといった人々の生活に密着しているため、児童生徒に興味関心をもたせるとともに、地理学習の系統性を考える上でも有効な学習内容である。

その農業の中でも、畜産は本県の基幹産業であり、児童生徒にとって身近に感じられる産業である。畜産について学習することは、関係者の努力や工夫、他の分野とのつながりをもっていることを具体的に学ぶことができるだけでなく、本県が我が国の食料供給基地としての役割を果たしていることを理解することにもつながる。また、地域に目を向け、調査し具体的に資料を活用しながら考える力や調べたことを表現する力を育てていくことができる。

さらに、高等学校での地理学習において、小・中学校での学習内容を活用した指導の工夫を行うことで、これまでの学習を体系的にとらえさせることや、学んだことを実生活に生かす力が育成され则认为。そこで本稿では、農業の中でも畜産を素材とした地理学

習指導において、小・中学校の指導内容を活用した指導の工夫の在り方について述べる。

1 鹿児島県の畜産の概要

(1) 日本有数の畜産県

本県は家畜の飼育頭羽数が全国において、豚が第1位、肉用牛とブロイラーが第2位、採卵鶏が第4位(平成20年2月1日現在)という日本有数の畜産県である。また、本県の農業産出額に占める畜産部門の割合が毎年50%を超えており、本県農業の中心となっている。

このように畜産が発展した要因を考えると、昭和30年代後半に本県が、食生活の変化に伴う畜産物消費の拡大を見越し、積極的に畜産の振興を図ったことに加えて、自然環境が家畜の飼育に適した温暖多雨の気候条件にあったこと、シラスを中心とする火山灰土壌が分布する広大な土地でえさとなる牧草の栽培が行われたこと、また、大型の穀物飼料供給基地が臨海部に相次いで建設されたことなどが挙げられる。

(2) 本県畜産の課題

このように本県農業の基幹となった畜

産であるが、担い手である飼育農家の高齢化や後継者不足に伴う農家戸数の減少、WTO、EPA農業交渉など国際化の進展への対応、近年の穀物飼料の価格高騰による畜産農家経営の圧迫、国内における産地間競争の激化など、畜産農家を取り巻く状況は厳しい。このような中で、競争力をつけ更に発展させるためには、安全性や品質の向上に努めていく必要がある。また全国的にその名が知られるようになった「かごしま黒豚」のようにブランドが確立できるような畜産物を作り

上げ、消費者に選択される努力が求められる。

2 各校種における農業単元の学習

小学校社会科、中学校社会科、高等学校地理歴史科の各学習指導要領（現行）に示されている農業に関する内容を抜粋したものが次の表1で、これを踏まえ、各校種で考えられる畜産に関する学習についてまとめたものが表2である。

表1 現行学習指導要領の中に示されている農業に関する内容

小学校 第3学年及び第4学年	小学校 第5学年	中学校	高等学校
<p>地域の人々の生産や販売について、次のことを見学したり調査したりして調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする。</p> <p>「次のこと」とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域には生産や販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていること ・ 地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色及び国内の他地域などとのかわり 	<p>我が国の農業や水産業について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかかわりをもって営まれていることを考えるようにする。</p> <p>「次のこと」とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な食料生産が国民の食生活を支えていること、食料の中には外国から輸入しているものがあること ・ 我が国の主な食料生産物の分布や土地利用の特色など ・ 食料生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸の働き 	<p>資源や産業から見た日本の地域的特色、世界的視野から見て日本はエネルギー資源や鉱産物に恵まれていない国であること、土地が高度に利用されていること、産業のさかんな国であること、といった特色を理解させるとともに、国内では地域の環境条件を生かした多様な産業地域が見られること、環境やエネルギーに関する課題などを抱えていることを大観させる。</p>	<p>世界の資源・エネルギーや農業、工業、流通などから系統地理的にとらえる視点や方法を学習することに適切な事例を幾つか取り上げ世界の資源、産業を大観させる。</p> <p>人口、食料問題を世界的視野から地域性を踏まえて追究し、それらは地球的課題であるとともに各地域によって現れ方が異なっていることをとらえさせ、その解決には地域性を踏まえた国際協力が必要であることなどについて考察させる。</p>

表2 各校種で考えられる畜産に関する学習

小学校 第3学年及び第4学年	小学校 第5学年	中学校	高等学校
<p>地域の家畜の飼育や畜産物の生産や販売に関する仕事について調べ、その仕事で自分たちの生活を支えている</p>	<p>本県の畜産の特色も踏まえながら、国民の食生活が、様々な農畜産物の生産によって支えられていること、農畜産物の中</p>	<p>日本の農業について、地域によってどのような特色があり生産の工夫がなされているか、また、世</p>	<p>資源、産業に関する事象の一例として農業を取り上げる。その中で世界の農業の形態が自然的・社会的条件の</p>

<p>こと，仕事の工夫，仕入れ・出荷などの面で国内の他地域とかかわりがあることを考えさせる。</p>	<p>には外国から輸入しているものがあることなどを地図や統計資料を活用して，生産量や主な産地などを調べることで，各産地の特色をとらえ，我が国の農業などの役割を理解させる。</p>	<p>界的視野で食料自給率の変化などから見えた我が国の食料に関する問題を通して畜産の特色を理解させる。</p>	<p>影響を受けて大きく異なっていることや，畜産物や穀物飼料の輸入状況から，我が国が肉類や多くの穀物を世界各地からの輸入に依存していることを理解させ，世界的な食料問題における課題とその解決策を考えさせる。</p>
--	---	---	--

3 小・中学校の指導内容を生かした高等学校地理学習指導の工夫

(1) 活用できる小・中学校における学習活動の例

[小学校]

- ・ スーパーマーケット等の見学における調べ学習。

販売されている畜産物の生産地はどこか。（県内産か県外産か，県外産であればどこの都道府県で生産されたものか。国産か外国産か，外国産であればどこの国から輸入されたものか。）

豚肉のパックには資料1のようなシールが貼られたものがある。このシールは何か。なぜ貼られているのか。



資料1 「かごしま黒豚」に貼られているシール

- ・ 我が国の食料自給率の推移を統計資料を基に調べ，グラフを作成する。その際畜産物に着目し，肉類は外国産がどのくらいの割合を占めているか確認し，その理由を考える。

[中学校]

- ・ 日本全体からみた国内の諸地域の特色を追究する学習において，我が国の農業の形態やどのような工夫が行われているのか調べる。その中で統計資料を活用して，都道府県別の農業生産額に占める畜産部門の割合の多い都道府県を調べ，我が国で畜産が盛んな地域に気付き，共通点や相違点に着目しながら考察する。また，畜産の特色や課題について，第1学年の鹿児島県の学習で学んだことを活用し，我が国の農業全体の特色や課題，その解決策について考える。

(2) 指導の実際

高等学校地理Bの「農業からみた世界」の単元における授業の具体的な展開事例を次に示す。単元の導入にあたる授業において，「世界の農業の多様性」や「農業地域の形成要因としての自然的条件，社会的条件の重要性」を理解させる取組の中に小・中学校での指導内容を活用し，ホイットルセーの農業地域区分や次時以降の各種農業の具体的学習につなげていく。

1 単元の目標

- (1)世界的視野から見た農業には、多様な地域性が存在することを理解させる。
- (2)世界の農業の地域的な差異を、自然的条件、社会的条件の二つの観点から思考・判断させ、各農牧業地域の特徴を理解させる。

2 本時の実際 (1 / 8)

過程	時間	主な学習活動	指導上の留意点 < 評価の観点 > は小・中学校の指導内容の活用
導 入	5	1 新しい単元について概要をつかむ。	新しい単元である世界の農業の学習について、小・中学校での内容を振り返り、本単元の指導内容を知らせる。 世界の農業に関するVTRの中で「本県の畜産」と「オーストラリアの牧畜」の様子を比較させることで、国や地域によって農業の形態が異なっていることの課題意識をもたせ、本時のねらいを焦点化させる。
		2 本時の学習内容、目標を理解する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">世界の農業に違いがみられるのはなぜだろうか。</div>	
展	10	3 世界の農業について、地域により形態の違いを調べる。 < 調べる観点 > ・ 自然的条件 (気温・降水量など) ・ 社会的条件 (民族の伝統・生活様式や宗教等のかかわり)	調べる観点として、自然的条件、社会的条件など提示し、学習への見通しや意欲をもたせる。 < 関心・意欲・態度 >
		4 農業は自然的条件、特に気温・降水量の影響を強く受けることを確認する。 ・ 地図で、年平均気温 0 の線と栽培限界がほぼ一致すること ・ 降水量の少ない地域は非農業地域や遊牧地域になっていること ・ 地域の自然条件に合わせて農業が展開されていること	調べたことを明確にするためにワークシートを準備する。 北陸の稲作や南九州・北海道の畜産に関する既習事項を想起させ、地域の自然を生かした農業を工夫してきたことと比較させることで世界各地でも同じように、自然的条件の違いによる地域的特色を生かした農業が行われていることを理解させる。 農業の工夫に気付かせるために、各地域の気候に関する資料を提示し、かんがい設備等で農耕地域となっている例を紹介する。 < 知識・理解 >
	10	5 農業に関する社会的条件について話し合う。 ・ 食習慣や民族の違いによって、生産や栽培されるものが違っていること ・ 経済の発展と農業の形態には関連があること ・ 国の農業政策等の違いによって農業の形態に違いがみられること	西アジアのある国の統計資料を提示し、食習慣や民族の違いが農業に与える影響を考察させるために、「なぜ、豚の飼育が行われていないのか」問いかける。 < 関心・意欲・態度 > 解決に困難を感じている生徒には、第1学年での現代社会「世界の宗教の特色」を想起させ、宗教が食習慣と関連があることを確認させる。 小学校での本県の農業の特色、中学校での我が国の農業の特色と、世界の各地域での農業の特色とを関連させることで、「社会的条件の違い」により、各地域で農業は工夫されていることを理解させる。 < 思考・判断 >
開	10	6 世界の農業は、いくつかの農業地域に区分されることを確認する。 ・ ホイットルセーの農業地域区分の確認 ・ 農業地域区分の地図での確認	農業地域区分は分類の基準によって複雑になること、五つの指標で13に区分したホイットルセーの区分が70年を経過した今でも利用されていることを理解させる。 < 思考・判断 >
		9 本時のまとめをする。	世界の農業に地域的な差異をもたらす二つの条件、世界の農業の類型化に農業地域区分が有効であることを再度確認させる。 ホイットルセーの農業地域区分に経済発展の歴史も加味された分類から、各種農業の形態や特色を学習していくことを知らせる。
終 末	5	10 次時の学習について知る。	

ここまで、地域の農業の特色を活用した地理学習指導の工夫について述べてきた。小・中学校の社会科で学習してきたことと関連付けを図ることで、高等学校の授業を工夫して

いくことができる。各学校で農業単元の学習に生かして欲しい。

(教科教育研修課)